

「海洋情報技術」	単 位 数	2 単 位
	学科・学年・学級	海洋科学科 水産食品類型 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	コンピュータの取扱いや保守に関する知識と技術を習得させ、水産や海洋の各分野で情報システム技術を活用する能力と態度を育てる。 また、表計算ソフトやデータベースソフトを利用して、管理・分析・活用し、ビジネスに対する情報活用能力に対する知識と技術を習得させる。
使用教科書・副教材等	海文堂 海洋情報技術 ・ 情報処理検定模擬試験問題集 3級

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 (学習活動の特記事項, 他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など)	考 査 範 囲
第 1 学 期	資格試験 wordの応用 図の挿入 表の挿入	4	ビジネス文書実務検定 2級, 1級	基礎・基本の確認・定着を行う。	1 学期中間考査
		5	ビジネス文書実務検定 2級の文書を作成する力を身につけさせる		
6	ビジネス文書実務検定 1級の文書を作成する力を身につけさせる	1 学期期末考査			
7	Wordの文書において図や表を挿入して、文書を作成する力を身につけさせる				
【課題・提出物等】 1 授業の中で使用するプリント。					
【第1学期の評価方法】 1 期末の定期考査の成績, 出席状況, 提出物の内容, 発表の仕方や内容, 学習活動への参加の態度などで評価する。 2 学期全体の評価は, 概ね, 中間と期末の定期考査の成績で70%, 出席状況やプリントなどの提出物, 授業態度・学習活動への参加の態度などで30%の配分として行う。					

第	表計算ソフトウェア (EXCEL) の応用 ・関数	9	EXCELの応用的な関数 (VLOOKUP 関数, HLOOKUP 関数など) を理解する。	情報処理検定 (ビジネス部門) 対応問題を解きハードウェア・ソフトウェアの役割を確認をおこなう。	2 学期中間考査
		10	EXCELの応用的な関数 (DSUM 関数, DAVERAGE 関数, SUMIF 関数, COUNTIF など) を理解する。		
11	2軸を用いたグラフの作成を理解する。またフィルタを用いた抽出作業を理解する。	2 学期期末			
12					

2				考 査	
期	【課題・提出物等】 1 授業の中で使用するプリント				
	【第2学期の評価方法】 1 中間と期末の定期考査の成績，出席状況，提出物の内容，発表の仕方や内容，学習活動への参加の態度などで評価する。 2 学期全体の評価は，概ね，中間と期末の定期考査の成績で70%，出席状況やレポートなどの提出物，授業態度・学習活動への参加の態度など30%の配分として行う。				
第 3	プレゼンテーションソフトウェアの活用。	1	テキストの入力，イラスト描写の作成，図表の挿入，アニメーションの設定，スライド順番の並び替え，スライドショーの実行を修得	資格試験に積極的に挑戦してください。「課題研究」の授業と関連づける。	3 学 期 末 考 査
	【課題・提出物等】 1 授業の中で使用するプリント				

【第3学期の評価方法】 1 学年末考査の成績，出席状況，提出物の内容，発表の仕方や内容，学習活動への参加の態度などで評価する。 2 学期全体の評価は，概ね，学年末考査の成績で60%，出席状況やレポートやノートなどの提出物，授業態度・学習活動への参加の態度などで40%の配分として行う。				
【年間の学習状況の評価方法】 「関心・意欲・態度」，「思考・判断・表現」，「資料活用の技能」，および「知識・理解」の4つの観点から評価した1学期の成績，2学期の成績および3学期の成績を総合し，年間の学習成績とする。				

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 現代は情報化社会である。日ごろからさまざまな情報機器に興味・関心を持ち，積極的に活用し，処理することが技能の向上に繋がります。そのためにも，情報機器に関する知識を深め，自ら進んで考えいくことが必要不可欠です。 1年次の学習より，応用発展的な学習を行います。また，情報処理検定を取得できるレベルまで引き上げ，社会における必要不可欠な情報処理能力を実践できる技能を身に付けることができます。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> 授業は基本的には情報処理室で行います。チャイムと同時に始めるので，教材・教具の準備をし，着席して静かに待つこと。また，情報機器は大切に扱うこと。 疑問点はそのままとしておかず，積極的に質問するよう努める。そのためにも質問の前に自分なりに資料等を探して研究しておくことが大切である。

(2) 評価の観点，内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 水産情報技術について関心を持ち，その知識・技術の習得に意欲的に取り組むとともに，情報技術を合理的に活用する創造的，実践的な態度を身に付けようとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 学習活動への参加の仕方や態度 問題演習の取り組み
思考・判断 表現	<ul style="list-style-type: none"> 水産情報技術について自ら思考を深め，その問題の解決に向け，適切に判断し，個性豊かに創意工夫する能力を身に付け，それらを的確に表現することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 問題演習の取り組み 授業態度（授業中の発言等）
資料活用の 技能	<ul style="list-style-type: none"> 水産情報技術に関する技術の習得や調査・研究などの実践活動を行うことができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 レポート 授業態度（授業中の発言等）
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 水産情報に関する知識を身に付け，情報技術の意義を理解しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査